

中学社会科公民的分野における合理的意思決定能力を高める指導の工夫

— 「対立と合意」「効率と公正」を軸にした学習活動を通して —

社会・地歴公民班 阿部 忠博(中学校教諭)

合理的意思決定とは 現代の社会的事象について、「効率」（無駄を省き最善のものになっているか）、「公正」（手続きが公正か、かかわっている人々にとって公正か）、という観点から考えて意思決定をすること。

見通し1

判断が分かれるような身近な現代の社会的事象について、
 ①個人で「対立」点を見出し、賛成・反対双方の意見を考える。
 ②その後、ペアで根拠を明確にして「合意」点を見出す。
 という学習活動により、合理的意思決定をする上で必要な能力の基礎が養えるであろう。

実践概要

授業はじめの10～15分を使い、新聞の投書を活用しその意見について、賛成・反対の考えを踏まえ、合意点を見出す学習活動を行った。

第1時	投票時刻は午後6時までで十分（朝日新聞投書）
第2時	定数削減は慎重に議論して（朝日新聞投書）
第3時	法務大臣死刑執行（琉球新聞投書）
第4時	持込禁止の上、高い食品（上毛新聞投書）
第5時	知事は育休より育児制度整備を（朝日新聞投書）



見通し1のワークシート

うまくいくように考えよう けねん公民科/選挙と投票 40分

1. 下の新聞記事を読んで
 賛成/反対の理由を記す

記事: 知事が辞任を拒む

賛成/反対の理由を記す

賛成の理由(賛成の理由を記す)

反対の理由(反対の理由を記す)

2. うまくいくように考えよう
 知事としての責任が果たせるか
 市民の利益を考えた場合

新聞記事(略)

見通し2

判断が分かれるような身近な現代の社会的事象について、
 ①「対立」点を見出し、「効率と公正」の概念をもって、個人で意思決定をする。
 ②その後、グループで討論し、「合意」点を見出す。
 ③それらを個人で振り返る。
 という学習過程を経ることにより、合理的意思決定能力が高められるであろう。

実践概要

単元末に1～2時間を使い、まず個人で、次に4人グループの形態で「効率と公正」の考えに基づいて合理的意思決定をするという学習活動を行った。

	学習活動	評価規準
実践1	裁判員制度のあり方を考えよう	裁判員制度のメリット・デメリットを知り、裁判員制度のあり方についてグループで検討し、合理的な意思決定をする（「効率と公正」の観点から考える）ことができる。
実践2	製造物責任法について考えよう	こんにやくゼリーと製造物責任法について、グループで検討し、合理的な意思決定をする（「効率と公正」の観点から考える）ことができる。

見通し2のワークシート

ワークシート2 投票 賛成/反対の理由を記す

1. 下の新聞記事を読んで
 賛成/反対の理由を記す

記事: 知事としての責任が果たせるか

賛成の理由(賛成の理由を記す)

反対の理由(反対の理由を記す)

2. うまくいくように考えよう
 知事としての責任が果たせるか
 市民の利益を考えた場合

新聞記事(略)

成果

- 合理的意思決定をする上で必要な能力の基礎を養うことができた。
 身近な現代の社会的事象について、個人で対立点を見出し、賛成・反対双方の意見を考えさせた後で、ペアで「合意」点を見出すという学習活動では、90%の生徒が根拠を明確にして「合意」点を見出した。
- グループ活動を通して合理的意思決定能力が高められた。
 「効率と公正」の概念をもって、グループで討論し、「合意」点を見出すことにより、様々な条件や理由から合理的意思決定を図るという考え方が身に付き、また、その際の付箋を使った学習形態が効果的であった。

課題

- 「効率」について生徒にわかりやすい教材の開発と年間指導計画への位置付け
- 生徒の知識・経験差を補うため、生徒の実態を踏まえた資料提示と支援の効果的方法